



業況DIは1.1ポイントの低下

～令和3年7・9月期中小企業景気動向調査結果～

公益財団法人神奈川産業振興センター（KIP）では、四半期ごとに県内中小企業の景気動向等を把握するため、県内中小企業2,000社を対象とした「中小企業景気動向調査」を実施しています。

令和3年7・9月期の調査結果がまとまりましたので、ご報告いたします。

◇要 旨

1. 総合の業況DIは、前期比1.1ポイント低下の▲45.6となりました。
経営状況では、売上DIは前期比1.1ポイント低下の▲34.4、また、採算DIは同0.3ポイント低下の▲36.4となりました。
2. 業種別の業況DIでは、製造業は前期比7.7ポイント上昇の▲28.4となりました。中分類では、一般機械は同17.9ポイント上昇の▲23.6、電気機械は同3.1ポイント低下の▲34.2、輸送用機械は同8.6ポイント上昇の▲25.9となりました。
建設業の業況DIは、前期比1.4ポイント上昇の▲27.7となりました。
商業・サービス業の業況DIは、前期比6.6ポイント低下の▲60.1となりました。中分類では、卸売業は同3.8ポイント上昇の▲47.2、小売業は同18.7ポイント低下の▲69.8、飲食店は同5.9ポイント上昇の▲85.5、サービス業は同1.4ポイント低下の▲41.3となりました。
3. 今後の総合の業況DIを見ると、3か月後は現在比0.8ポイント低下の▲46.4、半年後は同2.9ポイント上昇の▲42.7を見込んでいます。
4. 企業からは、「受注環境の好転に対応するべく、稼働率も上昇しているが、今年下期から来年にかけて、部品不足等もあり、生産環境は先が見えない状況である。」「本来ならトップシーズンとなる夏期ですが、コロナ禍でレジャー需要は減少しております。また、中国や台湾などアジア諸国からの仕入単価も徐々に上昇しております。」「コロナ感染症が落ち着かない限り、酒類業界は悪くなる一方だと思います。閉店されるお店も多くなると考えられます。」などの声が聞こえました。

▼本件に関するお問い合わせ先
(公財) 神奈川産業振興センター (KIP)
(Kanagawa Industrial Promotion Center)
総務部総務課 上野
TEL 045-633-5101 FAX 045-633-5018
URL <https://www.kipc.or.jp/> E-mail: kikaku@kipc.or.jp

令和3年7-9月期中小企業景気動向調査結果

業況DIは1.1ポイントの低下

公益財団法人神奈川産業振興センター（KIP）が四半期ごとに実施している「中小企業景気動向調査」の令和3年7-9月期の調査結果をまとめましたので、ご報告いたします。

1. 調査要領

- ・調査時期：令和3年8月
- ・調査対象：神奈川県内中小企業2,000社
- ・回答数（率）：1,036社（51.8%） ※詳細は下記の通り
- ・調査方法：調査対象へ郵送
- ・分析方法：DI（Diffusion Index）※による分析

※業況等について「良い」と回答した企業の割合から「悪い」と回答した企業の割合を引いた数値

区分	送付数	回答数	回答率（%）
製造業	550	351	63.8%
建設業	250	119	47.6%
商業・サービス業 （卸売業、小売業、飲食店、サービス業）	1,200	566	47.2%
合計	2,000	1,036	51.8%

2. 調査結果

（1）総合

	令和2年	令和3年				令和4年
	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期 見込	1-3月期 見込
業況DI	▲54.3	▲50.6	▲44.5	▲45.6	▲46.4	▲42.7
売上DI	▲35.1	▲45.9	▲33.3	▲34.4	—	—
採算DI	▲35.7	▲43.3	▲36.1	▲36.4	—	—

総合の業況DIは、前期比1.1ポイント低下の▲45.6となった。

経営状況では、売上DIは前期比1.1ポイント低下の▲34.4、また、採算DIは同0.3ポイント低下の▲36.4となった。

今後の業況DIを見ると、3か月後は現在比0.8ポイント低下の▲46.4、半年後は同2.9ポイント上昇の▲42.7を見込んでいます。

（2）業種別特徴

<製造業>

	令和2年	令和3年				令和4年
	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期 見込	1-3月期 見込
業況DI	▲61.4	▲48.4	▲36.1	▲28.4	▲28.6	▲26.5
売上DI	▲30.2	▲32.2	▲19.6	▲11.1	—	—
採算DI	▲32.5	▲33.5	▲30.8	▲22.3	—	—

製造業の今期の業況DIは、前期比7.7ポイント上昇の▲28.4となった。

経営状況では、売上DIは、前期比8.5ポイント上昇の▲11.1、採算DIは同8.5ポイント上昇の▲22.3となった。

「アジア（インドネシア他）で、コロナ感染によるロックダウンの影響で、国内生産に切り替わっている為、受注が増えている。」「受注環境の好転に対応するべく、稼働率も上昇しているが、今年下期から来年にかけて、部品不足等もあり、生産環境は先が見えない状況である。」「海外からの受注も含め、少しずつ状況が良くなってきている感じがする。」といった声も聞かれた。

今後の業況DIは、3か月後は現在比0.2ポイント低下の▲28.6、半年後は同1.9ポイント上昇の▲26.5を見込んでおり、「半導体製造装置に関わっていますが、6月過ぎてから部品の受注で、少し落ち着いています。今後の動向についてはわかりませんが、極端に落ちることはなさそうです。」「自動車業界の復調を受け回復するも、半導体・コロナ等減産報道もあり、先行きは不透明。」といった声も聞かれた。

なお、製造業の中分類の業況DIは以下の通り。

	令和2年	令和3年				令和4年
	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期 見込	1-3月期 見込
一般機械	▲67.4	▲46.7	▲41.5	▲23.6	▲25.0	▲17.4
電気機械	▲52.4	▲44.7	▲31.1	▲34.2	▲29.5	▲26.9
輸送用機械	▲61.7	▲52.5	▲34.5	▲25.9	▲24.1	▲24.1
その他	▲62.8	▲50.0	▲35.7	▲29.1	▲32.5	▲33.6

中分類で見ると、一般機械は前期比17.9ポイント上昇の▲23.6、電気機械は同3.1ポイント低下の▲34.2、輸送用機械は同8.6ポイント上昇の▲25.9となった。

今後の業況DIは、3か月後は一般機械が現在比1.4ポイント低下の▲25.0、電気機械が同4.7ポイント上昇の▲29.5、輸送用機械は同1.8ポイント上昇の▲24.1、半年後は一般機械が同6.2ポイント上昇の▲17.4、電気機械が同7.3ポイント上昇の▲26.9、輸送用機械は同1.8ポイント上昇の▲24.1を見込んでいる。

< 建設業 >

	令和2年	令和3年				令和4年
	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期 見込	1-3月期 見込
業況DI	▲22.6	▲14.3	▲29.1	▲27.7	▲29.1	▲29.6
売上DI	▲14.4	▲19.8	▲41.0	▲32.8	—	—
採算DI	▲24.8	▲24.2	▲29.9	▲31.1	—	—

建設業の今期の業況DIは、前期比1.4ポイント上昇の▲27.7となった。

経営状況では、売上DIは前期比8.2ポイント上昇の▲32.8、採算DIは同1.2ポイント低下の▲31.1となった。

「8月以降、大型物件がいくつか出て来たが、相変わらず公共関係の仕事が少ない。また、元請けからの受注はあるが、利益が少なすぎる。」といった声も聞かれた。

今後の業況DIは、3か月後は現在比1.4ポイント低下の▲29.1、半年後は同1.9ポイント低下の▲29.6を見込んでおり、「しばらくは、コロナが収まるまで不調が続きそうです。」「官公庁の受注が減って、民間工事も減少しています。先の見通しが読めません。」といった声も聞かれた。

< 商業・サービス業 >

	令和2年	令和3年				令和4年
	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期 見込	1-3月期 見込
業況DI	▲57.4	▲60.3	▲53.5	▲60.1	▲61.0	▲55.3
売上DI	▲43.3	▲60.7	▲40.6	▲49.3	—	—
採算DI	▲40.6	▲53.9	▲41.0	▲46.3	—	—

商業・サービス業の業況DIは、前期比6.6ポイント低下の▲60.1となった。

経営状況では、売上DIは前期比8.7ポイント低下の▲49.3、採算DIは同5.3ポイント低下の▲46.3となった。「本来ならトップシーズンとなる夏期ですが、コロナ禍でレジャー需要は減少しております。また、中国や台湾などアジア諸国からの仕入単価も徐々に上昇しております。」「飲食店関連の業務が休業しているので、非常に厳しい状況下となっている。この先不透明が続くと予想されるので、企業体力としては、限界にきている店や企業が相当あると思われる。益々迷走していくようだ。」「新型コロナウイルス感染症拡大防止協力により、時短営業、休業の繰り返しで、売上大幅減で赤字。アルバイト、パート雇用継続が難しい。」といった声も聞かれた。

今後の業況DIは、3か月後は現在比0.9ポイント低下の▲61.0、半年後は同4.8ポイント上昇の▲55.3を見込んでいる。「コロナ感染症が落ち着かない限り、酒類業界は悪くなる一方だと思います。閉店されるお店も多くなると考えられます。」「コロナの影響が大きい。団体客やイベントがないのと、手土産の数の減りなどが不調の要因です。感染者数が減ると売上が上がったりするので、今後もコロナ次第です。」といった声も聞かれた。

なお、商業・サービス業の各々の業況DIは以下の通り。

	令和2年	令和3年				令和4年
	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期 見込	1-3月期 見込
卸売業	▲64.4	▲57.0	▲51.0	▲47.2	▲52.3	▲50.0
小売業	▲56.5	▲57.9	▲51.1	▲69.8	▲71.4	▲62.4
飲食店	▲67.2	▲96.1	▲91.4	▲85.5	▲80.0	▲69.3
サービス業	▲48.9	▲46.7	▲39.9	▲41.3	▲41.9	▲41.2

業種別では、卸売業は前期比3.8ポイント上昇の▲47.2、小売業は同18.7ポイント低下の▲69.8、飲食店は同5.9ポイント上昇の▲85.5、サービス業は同1.4ポイント低下の▲41.3となった。

今後の業況DIは、3か月後では卸売業が現在比5.1ポイント低下の▲52.3、小売業は同1.6ポイント低下の▲71.4、飲食店は同5.5ポイント上昇の▲80.0、サービス業は同0.6ポイント低下の▲41.9、半年後では卸売業が同2.8ポイント低下の▲50.0、小売業は同7.4ポイント上昇の▲62.4、飲食店は同16.2ポイント上昇の▲69.3、サービス業は同0.1ポイント上昇の▲41.2を見込んでいる。

(3) 規模別特徴

		令和2年	令和3年				令和4年
		10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期 見込	1-3月期 見込
中規模	業況DI	▲51.7	▲48.2	▲35.8	▲38.8	▲38.9	▲34.6
	売上DI	▲30.6	▲41.2	▲23.8	▲27.8	—	—
	採算DI	▲30.2	▲40.7	▲26.6	▲30.9	—	—
小規模	業況DI	▲57.6	▲53.4	▲54.6	▲53.6	▲55.1	▲52.1
	売上DI	▲40.6	▲51.7	▲44.2	▲42.1	—	—
	採算DI	▲42.5	▲46.3	▲46.9	▲42.8	—	—

規模別の業況DIは、中規模企業は前期比3.0ポイント低下の▲38.8、小規模企業は同1.0ポイント上昇の▲53.6となった。

経営状況では、中規模企業は売上DIが前期比4.0ポイント低下の▲27.8、採算DIが同4.3ポイント低下の▲30.9、小規模企業は売上DIが同2.1ポイント上昇の▲42.1、採算DIが同4.1ポイント上昇の▲42.8となった。

今後の業況DIについては、中規模企業は3か月後が現在比0.1ポイント低下の▲38.9、半年後が同4.2ポイント上昇の▲34.6、小規模企業は3か月後が同1.5ポイント低下の▲55.1、半年後が同1.5ポイント上昇の▲52.1を見込んでいる。

(4) 地区別特徴（業況DI）

	令和2年	令和3年				令和4年
	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期 見込	1-3月期 見込
横浜	▲56.1	▲52.4	▲51.9	▲52.5	▲50.6	▲42.4
川崎	▲46.6	▲40.0	▲35.4	▲41.4	▲45.6	▲37.9
横須賀	▲56.9	▲55.1	▲36.4	▲39.6	▲44.0	▲47.0
平塚	▲67.3	▲61.0	▲52.4	▲51.4	▲50.5	▲43.8
藤沢	▲42.5	▲43.8	▲43.0	▲45.5	▲49.0	▲45.4
相模原	▲64.2	▲46.4	▲40.9	▲38.6	▲42.9	▲42.9
厚木	▲41.7	▲46.9	▲32.2	▲36.9	▲38.0	▲38.8
足柄上・西湘	▲61.2	▲59.8	▲55.1	▲50.5	▲45.9	▲45.4

今期の地区別の業況DIは、

横浜地区（前期比0.6ポイント低下の▲52.5）、川崎地区（同6.0ポイント低下の▲41.4）、横須賀地区（同3.2ポイント低下の▲39.6）、平塚地区（同1.0ポイント上昇の▲51.4）、藤沢地区（同2.5ポイント低下の▲45.5）、相模原地区（同2.3ポイント上昇の▲38.6）、厚木地区（同4.7ポイント低下の▲36.9）、足柄上・西湘地区（同4.6ポイント上昇の▲50.5）となり3地区で上昇し、5地区で低下となった。

今後の業況DIは、3か月後は、

横浜地区（現在比1.9ポイント上昇の▲50.6）、川崎地区（同4.2ポイント低下の▲45.6）、横須賀地区（同4.4ポイント低下の▲44.0）、平塚地区（同0.9ポイント上昇の▲50.5）、藤沢地区（同3.5ポイント低下の▲49.0）、相模原地区（同4.3ポイント低下の▲42.9）、厚木地区（同1.1ポイント低下の▲38.0）、足柄上・西湘地区（同4.6ポイント上昇の▲45.9）となり3地区で上昇し、5地区で低下すると見込んでいる。

半年後は、

横浜地区（現在比10.1ポイント上昇の▲42.4）、川崎地区（同3.5ポイント上昇の▲37.9）、横須賀地区（同7.4ポイント低下の▲47.0）、平塚地区（同7.6ポイント上昇の▲43.8）、藤沢地区（同0.1ポイント上昇の▲45.4）、相模原地区（同4.3ポイント低下の▲42.9）、厚木地区（同1.9ポイント低下の▲38.8）、足柄上・西湘地区（同5.1ポイント上昇の▲45.4）となり5地区で上昇し、3地区で低下すると見込んでいる。

▼本件に関するお問い合わせ先

（公財）神奈川産業振興センター（KIP）

（Kanagawa Industrial Promotion Center）

総務部 総務課 上野

TEL:045-633-5101 FAX:045-633-5018

URL <https://www.kipc.or.jp/> E-mail:kikaku@kipc.or.jp

景気動向調査 (令和3年7月～9月期)

業種別DI表

		製造業	建設業	商業・サービス業					総合
				卸売業	小売業	飲食店	サービス業	小計	
回収数		351	119	108	232	76	150	566	1,036
業況判断	現在の業況	▲28.4	▲27.7	▲47.2	▲69.8	▲85.5	▲41.3	▲60.1	▲45.6
	3ヶ月後の業況	▲28.6	▲29.1	▲52.3	▲71.4	▲80.0	▲41.9	▲61.0	▲46.4
	半年後の業況	▲26.5	▲29.6	▲50.0	▲62.4	▲69.3	▲41.2	▲55.3	▲42.7
経営状況	売上	▲11.1	▲32.8	▲32.4	▲62.8	▲73.3	▲28.7	▲49.3	▲34.4
	採算	▲22.3	▲31.1	▲39.8	▲55.7	▲67.1	▲25.7	▲46.3	▲36.4
	引き合い／客数	▲11.5	▲23.1	▲27.8	▲57.6	▲76.0	▲21.8	▲44.9	▲31.1
	単価	▲11.4	▲6.8	▲14.0	▲47.0	▲52.0	▲17.7	▲33.6	▲23.0
	仕入価格	▲68.5	▲48.7	▲58.3	▲39.7	▲49.3	▲27.3	▲41.4	▲51.5
	資金繰り	▲20.2	▲14.3	▲31.5	▲37.4	▲53.3	▲22.1	▲34.3	▲27.2
	残業	▲8.0	▲17.6	▲28.7	▲26.0	▲61.3	▲19.2	▲29.5	▲20.7
	設備稼働	▲12.3	▲12.4	—	—	—	—	—	▲12.3
前期経営実績	売上水準	▲27.1	▲27.1	▲37.0	▲56.0	▲82.7	▲34.0	▲50.1	▲39.7
	利益水準	▲10.0	▲0.9	▲11.1	▲35.5	▲68.0	▲13.4	▲29.3	▲19.5
	在庫	6.4	▲1.9	13.3	▲1.3	5.4	▲6.1	1.3	2.7
	投資	▲10.3	▲10.8	▲22.1	▲16.3	▲36.5	▲10.9	▲18.8	▲14.9
	雇用状況	▲6.6	▲29.9	▲1.9	▲3.1	1.4	▲21.9	▲7.3	▲9.6

参考＜前回調査＞

景気動向調査

		製造業	建設業	商業・サービス業					総合
				卸売業	小売業	飲食店	サービス業	小計	
回収数		352	117	98	231	71	139	539	1,008
業況判断	現在の業況	▲36.1	▲29.1	▲51.0	▲51.1	▲91.4	▲39.9	▲53.5	▲44.5
	3ヶ月後の業況	▲37.2	▲39.1	▲64.6	▲60.6	▲84.3	▲48.1	▲61.3	▲50.3
	半年後の業況	▲35.5	▲41.7	▲55.2	▲52.9	▲75.7	▲42.6	▲53.7	▲45.9
経営状況	売上	▲19.6	▲41.0	▲29.9	▲41.7	▲67.6	▲32.4	▲40.6	▲33.3
	採算	▲30.8	▲29.9	▲35.8	▲38.6	▲67.6	▲34.8	▲41.0	▲36.1
	引き合い／客数	▲20.9	▲41.7	▲27.1	▲41.3	▲76.1	▲26.8	▲39.6	▲33.3
	単価	▲13.4	▲12.8	▲18.1	▲37.2	▲50.7	▲14.6	▲29.8	▲22.1
	仕入価格	▲55.8	▲37.6	▲51.5	▲35.7	▲42.3	▲26.7	▲37.2	▲43.8
	資金繰り	▲23.6	▲12.0	▲32.3	▲32.0	▲52.1	▲34.6	▲35.4	▲28.5
	残業	▲23.0	▲35.0	▲24.5	▲23.7	▲60.0	▲38.7	▲32.6	▲29.5
	設備稼働	▲19.9	▲23.7	—	—	—	—	—	▲20.9
前期経営実績	売上水準	▲29.3	▲11.1	▲45.9	▲40.7	▲85.9	▲37.4	▲46.8	▲36.5
	利益水準	▲8.0	17.9	▲20.6	▲25.7	▲69.0	▲18.8	▲28.7	▲16.0
	在庫	4.7	0.9	9.5	6.2	7.0	▲1.7	5.1	4.5
	投資	▲14.7	▲8.0	▲21.1	▲13.3	▲38.6	▲12.8	▲18.0	▲15.7
	雇用状況	0.6	▲28.7	▲5.2	▲10.2	9.9	▲4.5	▲5.1	▲5.9

規模別DI表

		製造業		建設業		商業・サービス業		総合	
		中規模企業	小規模企業	中規模企業	小規模企業	中規模企業	小規模企業	中規模企業	小規模企業
回収数		188	163	55	64	314	252	557	479
業況判断	現在の業況	▲17.1	▲41.4	▲20.0	▲34.4	▲55.1	▲66.3	▲38.8	▲53.6
	3ヶ月後の業況	▲16.8	▲42.4	▲24.1	▲33.3	▲54.9	▲68.7	▲38.9	▲55.1
	半年後の業況	▲16.8	▲37.8	▲29.6	▲29.5	▲46.1	▲66.7	▲34.6	▲52.1
経営状況	売上	▲1.1	▲22.7	▲36.4	▲29.7	▲42.4	▲58.0	▲27.8	▲42.1
	採算	▲15.5	▲30.1	▲29.1	▲32.8	▲40.4	▲53.6	▲30.9	▲42.8
	引き合い／客数	▲1.1	▲23.3	▲15.1	▲29.7	▲38.1	▲53.4	▲23.5	▲39.9
	単価	▲5.9	▲17.8	▲21.8	6.3	▲29.0	▲39.4	▲20.5	▲25.9
	仕入価格	▲66.3	▲71.0	▲36.4	▲59.4	▲37.7	▲46.2	▲47.3	▲56.4
	資金繰り	▲12.8	▲28.8	▲7.3	▲20.3	▲29.7	▲40.2	▲21.8	▲33.6
	残業	2.1	▲19.6	▲10.9	▲23.4	▲28.2	▲31.1	▲16.2	▲26.1
	設備稼働	▲2.1	▲23.9	▲9.1	▲15.5	—	—	▲3.7	▲21.7
前期経営実績	売上水準	▲15.4	▲40.7	▲10.9	▲41.3	▲43.9	▲57.8	▲31.1	▲49.8
	利益水準	6.9	▲29.4	23.6	▲22.6	▲21.4	▲39.2	▲7.4	▲33.7
	在庫	12.4	▲0.6	▲3.8	0.0	4.7	▲2.9	6.5	▲1.8
	投資	▲9.0	▲11.7	▲5.7	▲15.5	▲14.0	▲24.7	▲11.5	▲19.0
	雇用状況	▲9.6	▲3.1	▲34.5	▲25.8	▲5.2	▲10.0	▲9.6	▲9.7

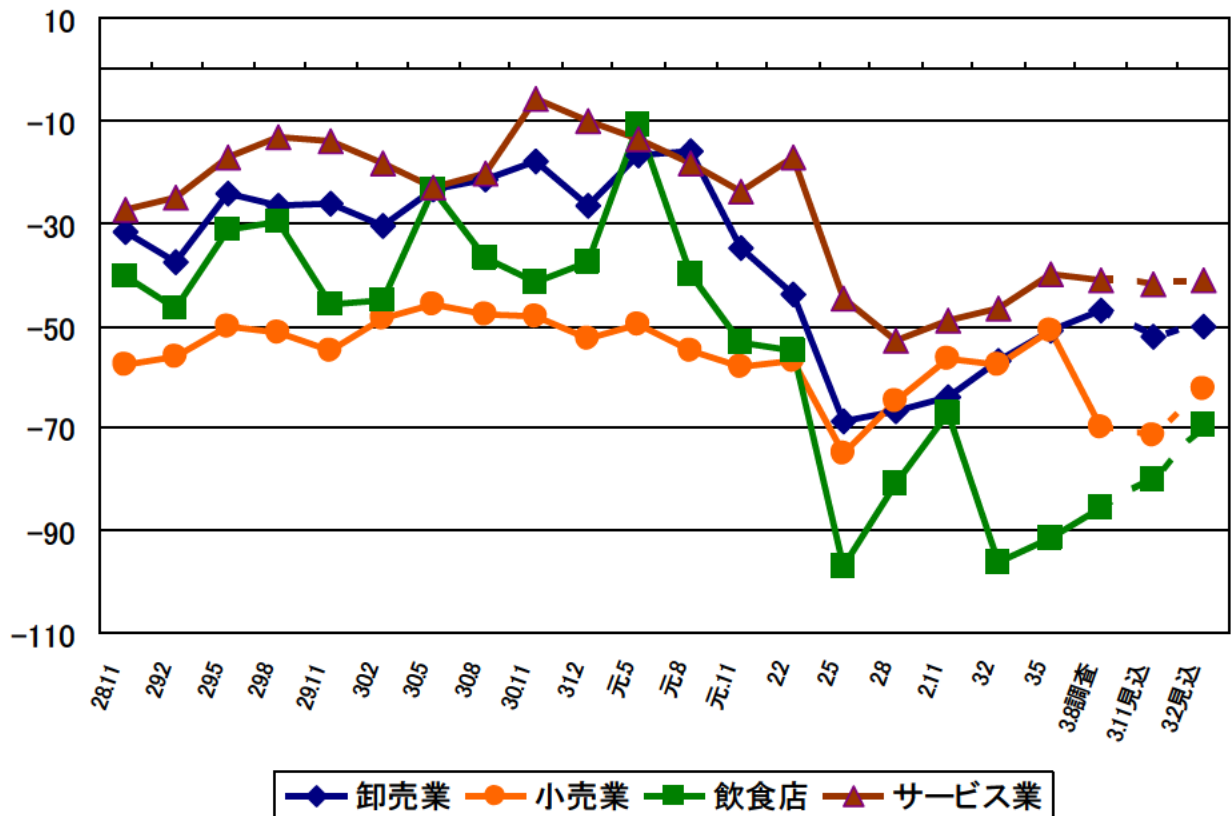
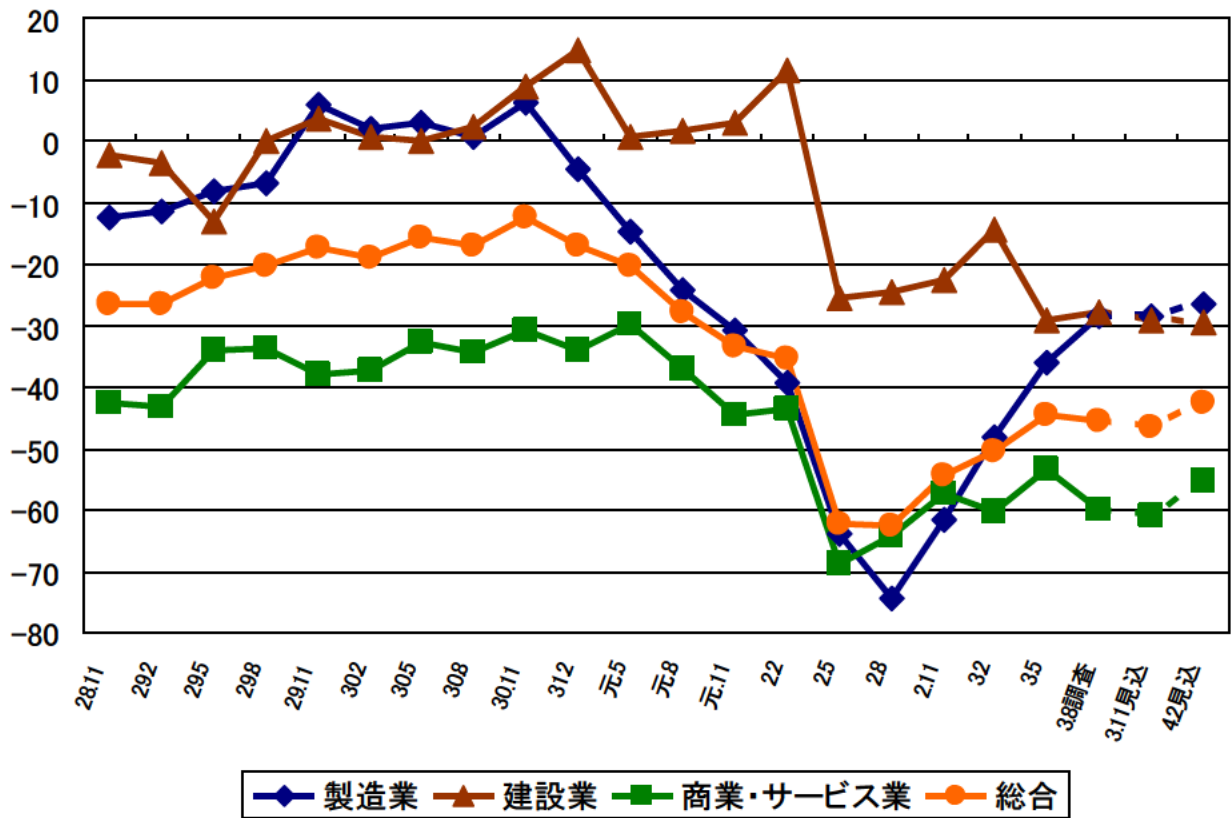
地区別DI表

		横浜	川崎	横須賀	平塚	藤沢	相模原	厚木	足柄上・西湘	総合
回収数		263	128	101	107	102	101	123	111	1,036
業況判断	現在の業況	▲52.5	▲41.4	▲39.6	▲51.4	▲45.5	▲38.6	▲36.9	▲50.5	▲45.6
	3ヶ月後の業況	▲50.6	▲45.6	▲44.0	▲50.5	▲49.0	▲42.9	▲38.0	▲45.9	▲46.4
	半年後の業況	▲42.4	▲37.9	▲47.0	▲43.8	▲45.4	▲42.9	▲38.8	▲45.4	▲42.7
経営状況	売上	▲39.7	▲31.3	▲33.7	▲35.8	▲28.4	▲28.7	▲28.5	▲42.3	▲34.4
	採算	▲41.6	▲31.5	▲34.0	▲38.1	▲22.5	▲34.7	▲39.0	▲41.4	▲36.4
	引き合い／客数	▲37.1	▲28.6	▲22.2	▲38.7	▲26.7	▲27.7	▲23.1	▲36.0	▲31.1
	単価	▲20.8	▲22.8	▲31.0	▲24.8	▲18.8	▲21.8	▲21.1	▲26.1	▲23.0
	仕入価格	▲54.7	▲49.2	▲47.5	▲54.7	▲49.0	▲51.5	▲57.9	▲42.7	▲51.5
	資金繰り	▲28.5	▲24.4	▲26.0	▲25.5	▲18.8	▲30.7	▲26.8	▲35.1	▲27.2
	残業	▲19.9	▲18.4	▲21.2	▲22.9	▲9.9	▲19.2	▲24.8	▲29.7	▲20.7
	設備稼働	▲10.8	▲12.1	▲5.3	▲14.3	▲9.1	▲7.7	▲14.8	▲26.2	▲12.3
前期経営実績	売上水準	▲47.5	▲42.2	▲28.7	▲39.6	▲34.0	▲38.6	▲27.6	▲47.7	▲39.7
	利益水準	▲28.4	▲18.0	▲19.8	▲14.2	▲12.9	▲18.8	▲4.9	▲27.9	▲19.5
	在庫	4.5	0.0	▲7.1	7.8	7.1	2.1	▲3.5	9.3	2.7
	投資	▲13.3	▲14.2	▲12.2	▲16.3	▲19.0	▲17.5	▲10.8	▲19.1	▲14.9
	雇用状況	▲8.6	▲17.3	▲13.1	▲13.7	▲4.0	▲9.1	▲11.5	0.0	▲9.6

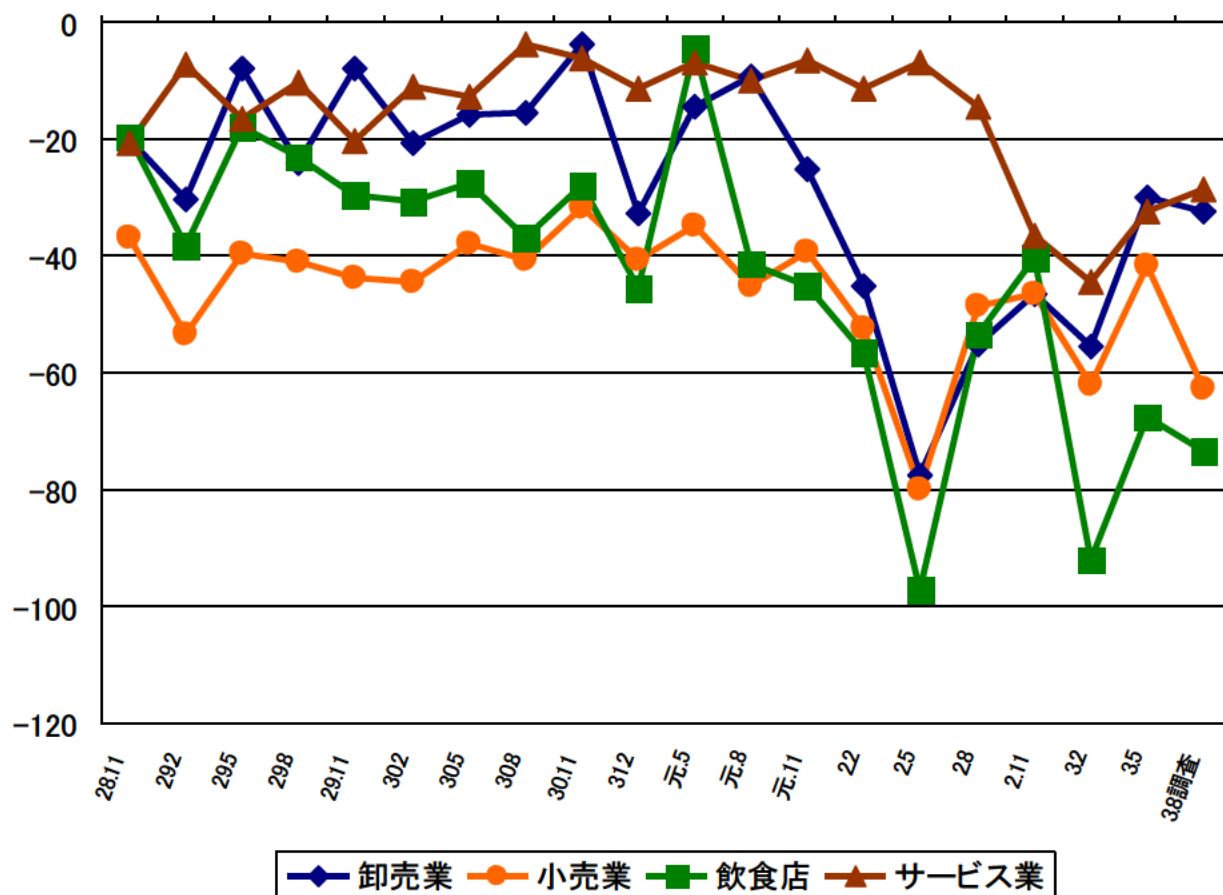
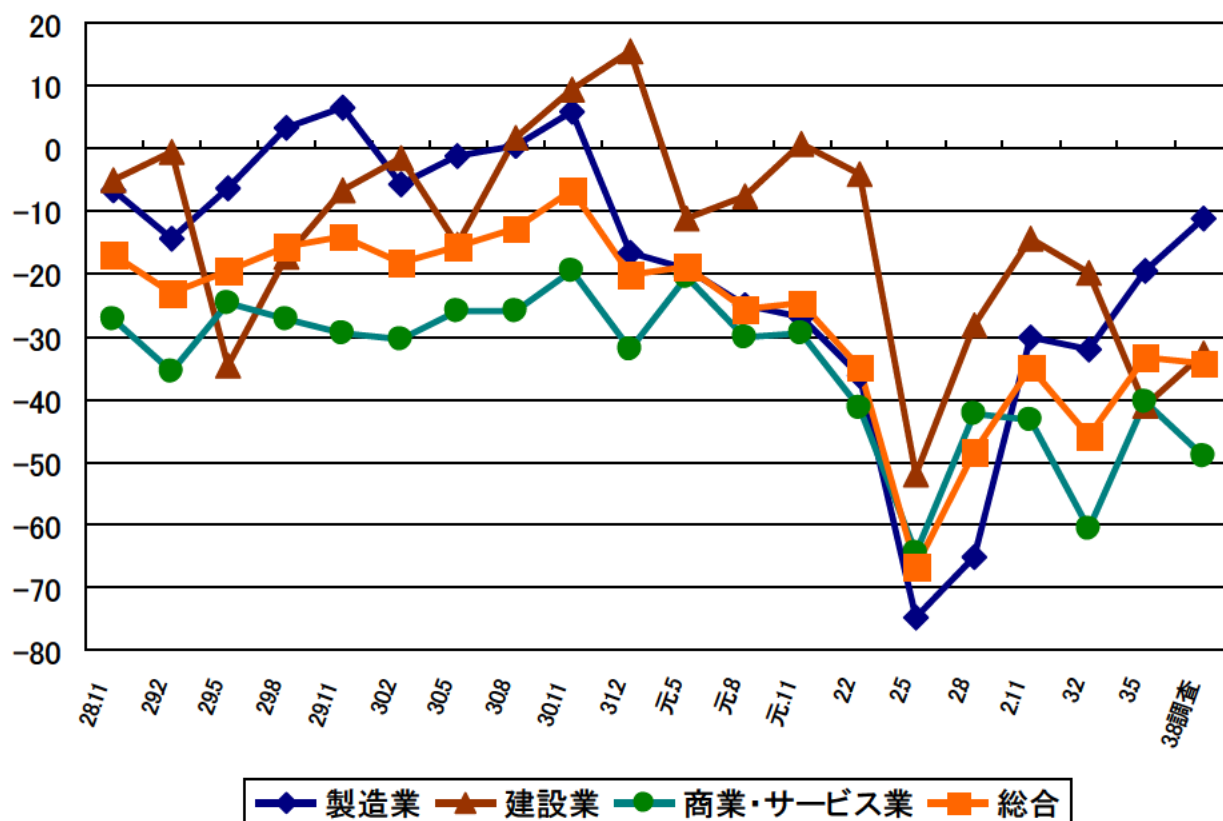
製造業中分類別DI表

		一般機械	電気機械	輸送用機械	その他	総合
回収数		89	79	54	129	351
業況判断	現在の業況	▲23.6	▲34.2	▲25.9	▲29.1	▲28.4
	3ヶ月後の業況	▲25.0	▲29.5	▲24.1	▲32.5	▲28.6
	半年後の業況	▲17.4	▲26.9	▲24.1	▲33.6	▲26.5
経営状況	売上	▲19.1	▲3.8	5.6	▲17.1	▲11.1
	採算	▲25.8	▲15.4	▲13.0	▲27.9	▲22.3
	引き合い／客数	▲6.7	▲10.3	▲7.4	▲17.3	▲11.5
	単価	▲7.9	▲8.9	▲9.3	▲16.4	▲11.4
	仕入価格	▲68.5	▲64.6	▲64.2	▲72.7	▲68.5
	資金繰り	▲22.5	▲21.5	▲5.6	▲24.0	▲20.2
	残業	▲16.9	1.3	1.9	▲11.6	▲8.0
	設備稼働	▲18.0	▲2.5	▲5.6	▲17.1	▲12.3
前期経営実績	売上水準	▲27.0	▲27.8	▲24.1	▲28.1	▲27.1
	利益水準	▲10.1	▲12.7	▲3.7	▲10.9	▲10.0
	在庫	5.8	7.6	3.8	7.0	6.4
	投資	▲7.9	▲10.1	▲9.3	▲12.4	▲10.3
	雇用状況	▲6.7	▲7.7	▲9.3	▲4.7	▲6.6

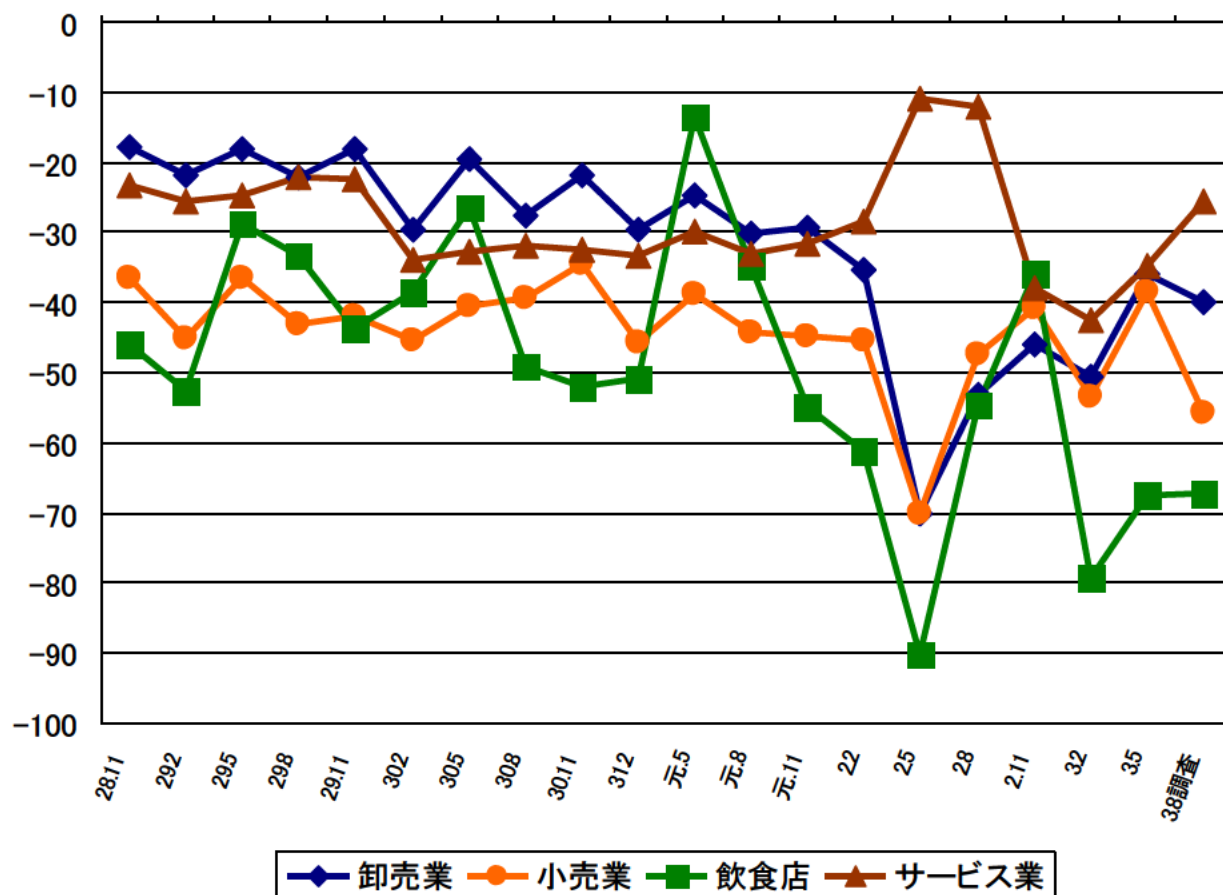
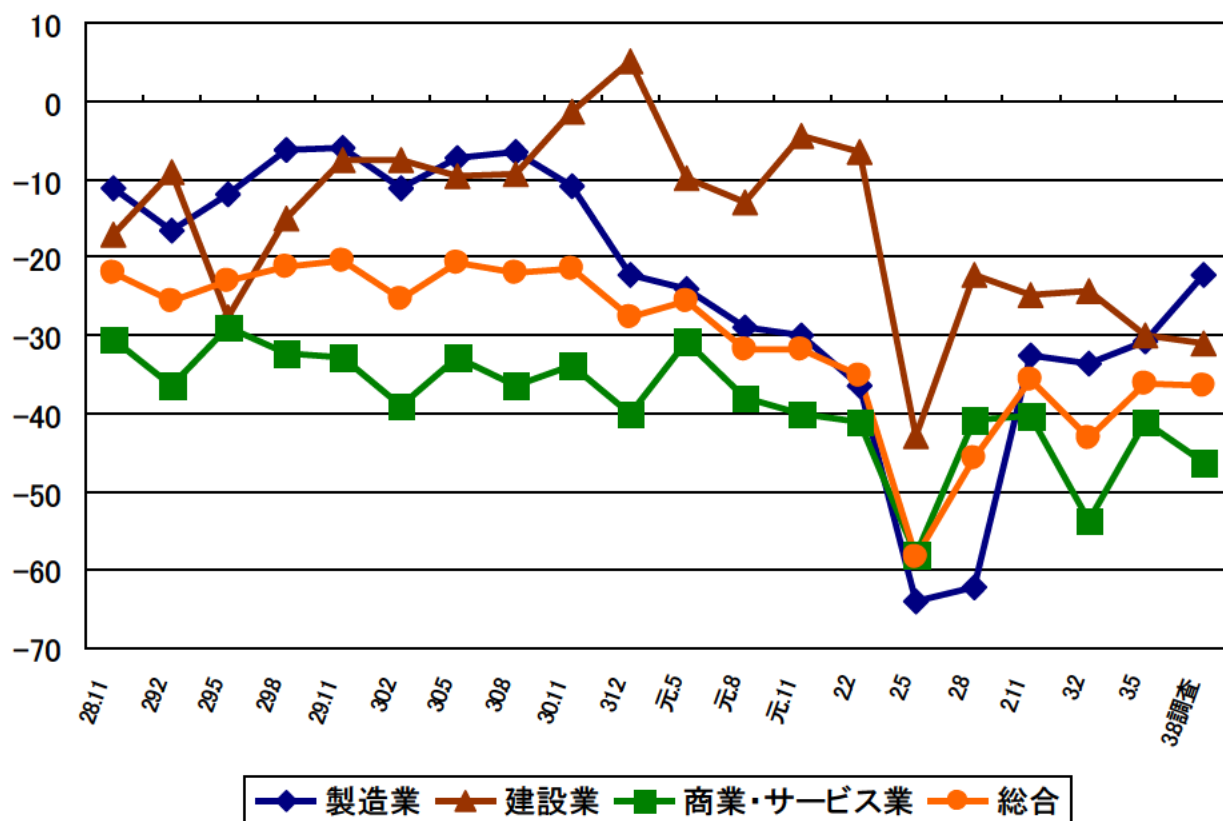
業況DIの推移



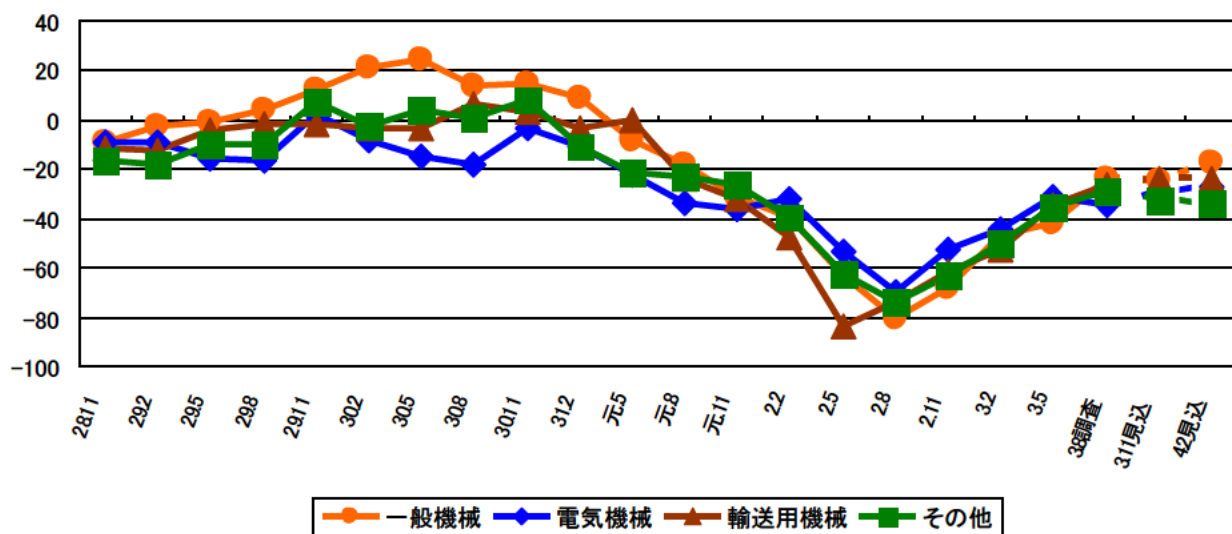
売上DIの推移



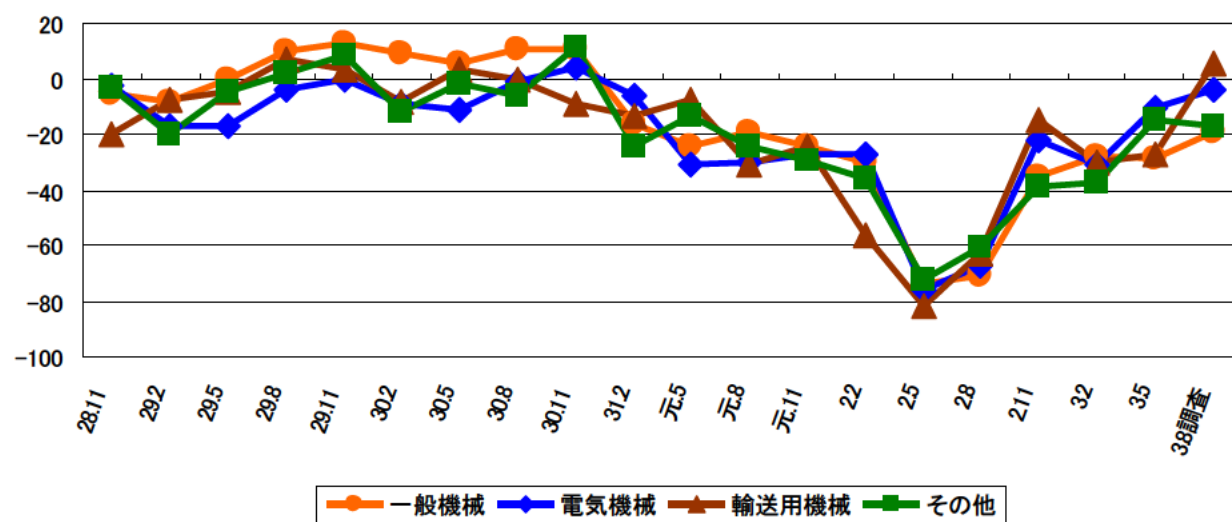
採算DIの推移



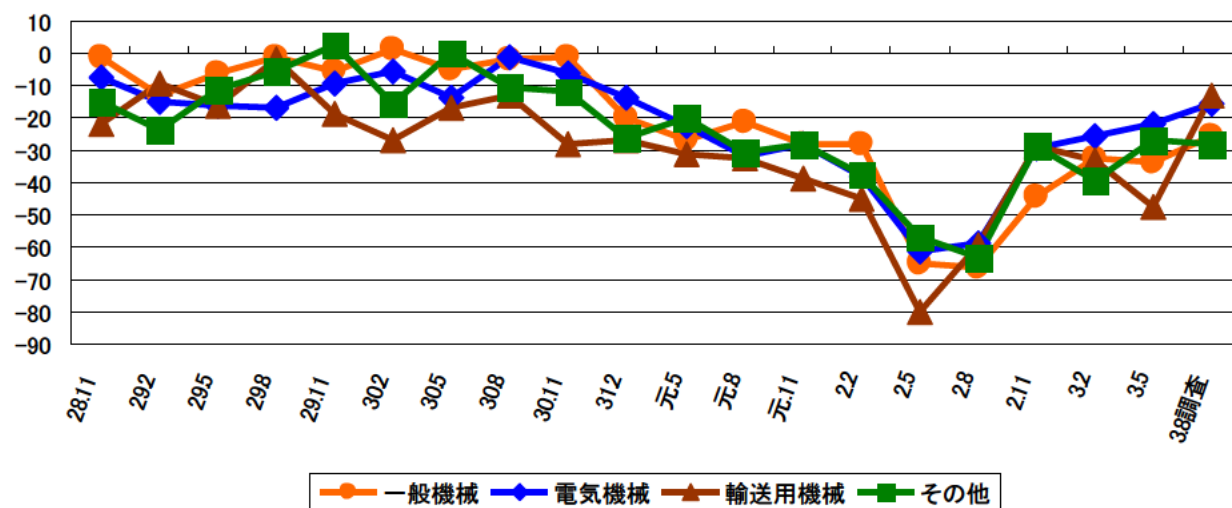
製造業(中分類)業況DIの推移



製造業(中分類)売上DIの推移



製造業(中分類)採算DIの推移



調査回答企業からのコメント(一部)

<製造業>

「先が見えない。鋼材の値上がりが心配。」
「在庫調整が一巡し、引き合い増加。但し、一過性なのか、ベースかは定かでない。」
「建設機械用部品が好調な為、売上が上がっている。」
「現状が底の状態と思われる。取引先によって、上向いている企業も出て来たので、これからかと思う。」
「コロナの影響で、受注量が減少し、この状況の先が見えない為、不安定な状態が続いている。」
「8月下旬くらいから材料の供給不足。それに伴う値上がりにより経営環境は悪化する見通し。金属材料が手に入りにくくなってきている。」
「世界的なコロナの影響で、客先の状況がはっきりしない。また、半導体不足が少し関係してきている。」
「半導体、工作機械向けが好調。今後は不透明。」
「昨年4～6月は、コロナの影響であり、9月以降は好調。上期は良いが下期は分からない。若干下がりそう。」
「半導体関連が盛況。自動車は回復傾向で、好調が続くそう。」
「一時に比較すれば、引き合いは増えたが、先行き不透明感是不変。」
「7月までは通常年の6割まで回復。利益が増えることを予想しているが、コロナの影響がどこまでになるか不安である。」
「自動車関連製品の増産が続いており、向こう3年間程度は継続する予定。」
「引き合いは増えているが、現材料が高くなり、また、一部では市場にない状況である。年末までには、好転する予定。」

<建設業>

「今後の見通しは、良くないと思います。」
「現在までコロナの影響はありませんでしたが、今後、官公庁の仕事がなくなるのではないかと。8月から鉄関係の資材が値上がりしています。令和5年4月から厳しくなるのでは。」
「今のところ、建設業はコロナの影響はありませんが、今後どうなるか不安です。」
「コロナの影響で、案件に業者が集中して、受注単価が下がっている。」
「鋼材の高騰により、元請からの受注単価が急激に下がった。」
「公共工事の入札が好調なことに加え、民間工事も独立系マンションデベロッパーを含め、順調に工事を受注。介護部門は、コロナの影響で、入居が停滞し、売上はのびなかったものの全般的には売上増加傾向となった。」
「材単価の高騰に悩まされています。今後の仕入れ状況にかなり不安があります。」
「コロナの影響で、工期の遅れや、官公庁の発注が少なくなる可能性あり。」
「公共工事の受注が減っているので、この先も厳しい状況が続く。」
「制約があるため、訪問営業が活発に出来ず、仕事に支障をきたしている。工事量の減少により競争激化。」

<卸売業>

「コロナ禍の影響により、海外での生産がなくなっており、商品の入荷不足、原木の不足によって、仕入価格が2倍～3.5倍に上がっています。」
「全てにおいて、仕入原価が上がっています。10～20%運賃上がって、どのように値上げが出来るかと考えています。」
「イベント等の中止による消費の低迷の影響が大きい。」
「昨年よりも円安傾向のため、仕入価格が上昇しております。また、海上運賃や航空便運賃の上昇も少なからず影響があります。」
「労働時間の短縮により、コロナの影響もあり士気が上がらない。景況は底を脱しましたが、将来への展望に欠けている。」
「売上高・客数がじわじわと減少している。原価は急激に上昇している。」
「昨年度からのコロナ禍が長引く中、この先まだまだ分からない状況だと思います。」
「コロナ終息の状況が不明につき、先の見通しが読めない。外国との取引が停止状態。」
「海外が生産地である弊社は、インドネシアコロナ感染拡大に伴い、生産高が低迷し、国内の売り上げが低迷している。ただし、国内の需要は増えている。」
「半導体装置部品、PCR検査装置部品、EVリチウム電池製造装置部品、5G基地局用部品などの部品製作による。」
「ウッドショックの動向とコロナの影響で、明るい見通しはできない。コロナ患者の増加などもあるため、不調見込み。」

<小売業>

「令和3年4～6月は、入園用品、地元応援プロジェクト等で、クーポン券の利用により売り上げが多少上昇。8月に入ると、緊急事態宣言、暑さで客足がほとんどない不況。しばらく景気は戻らないし、店売りは衰退化の方向になるのでしょうか。」
「近くのICが台風の影響で通行止めが続いていて、東京方面からの来客数が減っている。」
「先行き不透明で、不安感が多い。」
「コロナウイルスの関係は大いにありますが、嗜好品の多様化による品種が増加している事も大きな要因と考えられます。他店との差別化は、必要と思います。」
「取引先企業の消費減少の影響もあり、お客様の消費減少が見られ、来店客数も伸びない。テレワークは必要だが、職場での需要が減っている。」
「コロナによる客数減。しばらくは様子見の状況。」
「コロナ感染者数の急増が売り上げにも響いています。夏の帰省需要も見込めず。先行きが不透明で不安です。」
「コロナ禍の見通しが立たず。必要なものの購入にとどまり、ついで買いが無い。」
「巣ごもり需要も一段落してきた感があり、リフォーム的工事も減ってきた。高齢者でどこもいけなく、お金も使わない分、何に使おうかの声もあります。」
「お酒のイメージがどんどん悪くなっている事に危機を感じる。なくなる事はないだろうが、若年層の客離れになる気がする。」
「コロナの影響が厳しい折、熱海伊豆山の災害で、交通機関の影響が厳しく、旅館及び保養所の客数減少でかなり厳しくなるようになる。」
「コロナが終息するまでは、見通しは暗いです。」
「顧客に飲食店が多く、度重なる緊急事態宣言等で、酒の供給停止で、飲食店向けの売り上げ50%以下。(宣言時は70%減。)家呑みも増えているので、今後飲食店に戻るかも不安です。」
「国内外の通販および、海外卸売が好調。」
「プロパン、原油の輸入価格が高騰している為、価格の変更等考えて行かないといけないと思う。」

<飲食店>

「コロナが終息するまでは、見通しが全く立たない。せめて昼間だけでも酒類の提供ができれば。」
「いつまで続くか分からないこの状態。アルコールが出せず、夜のお客様が減ってきている。この後が心配です。」
「緊急事態宣言や、蔓延防止の為、お酒が提供できない為、売上だけが減少。お酒が無い為、回転が早く、客数が伸びている。」
「オリンピックが開催されているので、お盆明けから9～10月にかけて、コロナ拡大により更に悪化すると思われる。飲食店から酒を取ったら、全く営業が出来ない。それを考えれば、この先どんどん厳しくなると思う。」
「緊急事態宣言や蔓延防止措置が出ると、時短や酒類が出なくなりますので、コロナの一日でも早い終息を願っています。」
「コロナ感染防止対策としての時短等、厳しい状況です。」
「現状維持で、手一杯です。今年中好転見通しなし。」
「コロナの影響をものに受けており、努力だけでは難しいと思っております。今は極力、経費を減らすしかないと思っています。」

<サービス業>

「コロナの影響で店舗の休業等で客数減少。」
「コロナの渦中ですが、感染拡大のくり返しの中にも少しずつ業績は伸びて来る気がします。」
「今期、出足はオリンピック需要で好調ですが、今後、コロナ禍の状況によっては不安があります。」
「コロナの影響は、今のところ少なく、売り上げも変わらずきていますが、今後、人件費の上昇もあるので、他の経費の節減に努めたいです。」
「得意先は、運送業、工事業が多いが、コロナ禍にも順応しはじめていてそれなりに落ち着いている。安定した感じがある。」
「月毎に、若干の凹凸はあるものの、大きくは、前年同月と変わらない売上となっている。コロナ禍によるマイナス影響は限定的である。」
「金属くずの相場が上がったため好調。今後は諸経費が増えるため、今ほどの好調は見込めない。」
「コロナで先が見えない。雇用も不安がある。」
「コロナの感染者急増に伴い、感染防止対策で業務量が増え、経費も増加している。在宅勤務には限界もあり、今後も続くと思うと辛い。」